

住まいのお役立ち情報



「高気密・高断熱」で経済的&長持ち&健康

住宅の気密を高めることで、住宅から放出する熱を最小限に抑える

「高気密・高断熱住宅」。外気温に影響されず、わずかなエネルギーで室内を快適な温度に保つので、冷暖房費の節約になります。

また、湿気やカビの発生を防ぐ効果もあるので、住宅そのものが長持ちするメリットも。さらには、気密性の高い家では換気計画も立てやすく、家中の空気がいつも新鮮で健康的。つまり、高気密・高断熱住宅は、経済的で、建物にも住む人にも優しい住宅なのです。



「太陽光発電」で地球に優しく、自分たちトクをする。



太陽光発電とは、文字通り「太陽の光エネルギーを用いて、電気に変換する」発電方式で、エネルギー源の確保が簡単で、地球にもやさしいのが特徴です。自宅でする電気を自宅で作るので電気代の節約になるのはもちろん、余った電気を電力会社に買い取ってもらうこともできます。

2009年10月までの買い取り金額は約24円/kWhでしたが、2009年11月より「太陽光発電の新たな買い取り制度」がスタートしたため、およそ倍の48円/kWhで電力会社に買い取ってもらうことができます。しかも、この太陽光発電システム設置に対して補助金を出している自治体も多く、ますます注目が高まっています
(支援内容も自治体によって異なります)。

環境に配慮したオール電化システム・エネファーム

オール電化住宅とは、住まいで使用するエネルギーを電気でまかなう住宅のこと。CO2削減に貢献できる、まさに「エコ住宅」です。またガス・石油を室内で使用しないため、空気をクリーンに保つことができ、高気密・高断熱住宅と相性が良いとされています。

また最近の注目は「エネファーム」。こちらはガスから水素を取り出して発電するシステムで、発電時に発生する熱を利用してお湯を作ったり暖房に使うことができ、効率的にエネルギーを利用するというもの。

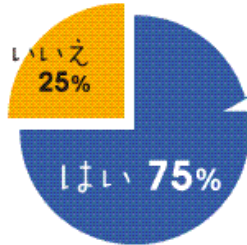
こちらでも地球の資源を無駄にしない「エコ住宅」といえるでしょう。



東日本大震災を経て、私たちの意識はどう変わったのだろうか？環境について、家族の絆について、思いを深めた人が多かったのでは。30年後に子どもたちが安心して暮らせる社会にするために、もっと小さなエネルギーで、快適に暮らせる家づくりを。未来に向けて、いま私たちが設備や建材選びで、できることを考えてみよう。



東日本大震災後、エネルギー問題(節電しなければならない現状)を受けて、あなたの「地球環境」や「省エネ」に対する意識に変化はありましたか？



75%の人が環境・省エネ意識に変化あり、と答えた

多くの人が2011年3月11日の東日本大震災を経て、環境・省エネ意識が変化したことがこのアンケート結果からもうかがえる

省エネ設備で、エコ&快適な生活

省エネって、ガマンすることじゃない。省エネに役立つ設備・建材を選べば、ラクして経済的で快適な暮らしになる

断熱材

熱を味方にすれば無駄なエネルギーを使わず快適空間に

断熱材は、熱の出入りを抑えるために床や壁、屋根(もしくは天井)に詰めるもの。家を断熱材でくると、ちょうど魔法瓶のように、熱が逃げにくく、外の温度も中に伝わりにくくなる。きちんと断熱した家は、冷暖房の効き目がよいので、冬は暖かく、夏は涼しい。断熱材が高性能になるほど、冷暖房のエネルギーを少なくできておサイフに優しい。省エネ設備を導入する前に、まず押さえておきたい。

断熱窓・玄関ドア

窓辺のひんやり、玄関の寒さもう悩まない



窓や玄関ドアから逃げる熱も少なくしたい。そんなとき効果を発揮するのが、複層ガラスや断熱サッシ、断熱ドア。冬の寒い朝、窓辺に近づくといひんやりする。出かける前の玄関で「寒い！」。そんな不快さもこれらの建材で解消され、家中どこにいても温度差が少ないので、部屋から廊下に出ても、夜のトイレももう大丈夫。これらを用いて、もっと小さなエネルギーで冷暖房できる家をつくろう。

高断熱浴槽

冷めにくいから生活時間の違う家族にうれしい温かいお湯

夫の帰りが遅い場合など、お風呂のお湯が冷めてしまって、いつも追い焚きしている。そんな家庭にうれしいのがこの設備。浴槽にも風呂フタにも断熱材を入れて魔法瓶のような構造にした高断熱浴槽だ。6時間たっても約2℃しかお湯の温度が下がらないという製品もある。追い焚きしなくても温かいお湯に入れるので、お風呂の時間がバラバラになってもそのまま入れて、おトク。

